

令和6年度DX観光客動態調査事業

国内観光客 エリア別着目ポイント分析

2025年3月25日

発行 沖縄県文化観光スポーツ部観光政策課

委託先 令和6年度DX観光客動態調査事業共同企業体
株式会社リクルートライフスタイル沖縄
株式会社ブログウォッチャー
公益財団法人九州経済調査協会

国内観光客
エリア別着目ポイント分析

目次

分析結果サマリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

恩納村における閑散期の来訪属性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

琉球ゴールデンキングス試合開催日の観光客来訪動向・・・ 7

那覇市内のMICE・イベントによる観光来訪・・・・・・・・・・・・ 12

宮古島トライアスロン当日の混雑状況・・・・・・・・・・・・・・ 16

石垣市における川平湾以外の滞在スポット・・・・・・・・・・・・ 20

高消費層の沖縄県来訪状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

分析項目	分析結果	分析による示唆
(北部) 恩納村における閑散期の来訪属性	<ul style="list-style-type: none"> 恩納村では1・5・6・9・12月が閑散期となり、来訪者数は繁忙期（7・8月）の約2/3に減少 男女60歳代、女性50歳代は猛暑・混雑となる繁忙期を避け、閑散期の来訪が多い傾向 男女20歳代や北海道・東北発地は、来訪ピークが春・秋にあるほか、閑散期の来訪も比較的多い 	<ul style="list-style-type: none"> 猛暑・混雑を避ける層などに向けた魅力造成や楽しみ方の情報発信が閑散期の底上げにつながる可能性
(中部) 琉球ゴールデンキングス試合開催日の観光客来訪動向	<ul style="list-style-type: none"> 試合開催日における沖縄アリーナ来訪者数（発地距離20km以上）はおよそ1,500～3,000人 性・年齢別では男性20～40歳代、女性30・60歳代の比率が高い 来訪者のうち32.7%が試合後に宿泊も、うち沖縄市内宿泊が約1/3、那覇市宿泊もほぼ同比率 周辺観光スポットへの周遊は、試合前が多い傾向 	<ul style="list-style-type: none"> 対戦相手サポーターの試合前後における沖縄市内滞在（宿泊）にはさらなる増加の余地があり、特に、属性に応じた、試合後の市内での過ごし方のPRが有効
(南部) 那覇市内のMICE・イベントによる観光来訪	<ul style="list-style-type: none"> 那覇市のMICE・イベント施設来訪者数は前年から+8.9%増加、月別では2月に最も多い 性年齢別では男性20～50歳代、発地別では関東の比率が高い 来訪者のうち87.4%が宿泊旅行で来訪、多くが那覇市内で宿泊し、国際通りなど繁華街へ周遊 	<ul style="list-style-type: none"> MICE・イベントが那覇市への来訪・宿泊に寄与しており、特に閑散期は効果が大きい 人気観光地以外への周遊が課題
(離島) 宮古島トライアスロン当日の混雑状況	<ul style="list-style-type: none"> 東仲宗根（宮古島市陸上競技場）、福里（ラン折り返し地点）、与那覇（スイム会場）などの各種ポイントや、バイク・ランのコース上などで当日の来訪者数が増加 時間帯別のピークは地点によって異なり、東仲宗根は日中、与那覇では早朝、またコース上では通過時間でピンポイントに増加する傾向がみられた 	<ul style="list-style-type: none"> 各種ポイント地点や、時間帯ごとの通過状況に応じた警備配置によるトラブル防止
(離島) 石垣市における川平湾以外の滞在スポット	<ul style="list-style-type: none"> 石垣市街地の湾岸エリアである「八島町」、西部で名蔵湾に面する「名蔵」、南東部で古い石垣の雰囲気が残る「白保集落」では、来訪者規模は小さいながら前年増減率が高い 名蔵や白保集落では、8月の来訪者数が特に増加 	<ul style="list-style-type: none"> シーズンにおけるオーバーツーリズム回避に向けて、石垣市東西部への誘導が有効となる可能性
(全体) 高消費層の沖縄県来訪状況	<ul style="list-style-type: none"> 高消費層の2024年来訪者数は前年増減率+0.6%、沖縄県全体の増加率を下回る 属性別では、発地関東や男女30歳代、女性40～50歳代の比率が高い 	<ul style="list-style-type: none"> 複数のペルソナ設定に基づく旅行プランの提案・発信により、高消費層の来訪者数増加につながる可能性

国内観光客
エリア別着目ポイント分析

1. 恩納村における 閑散期の来訪属性

分析対象データ

- 恩納村に来訪した沖縄県外を発地とする国内観光客

分析対象期間

- 2024年（1～12月）

恩納村では7・8月が繁忙期、1・5・6・9・12月が閑散期であり、閑散期は繁忙期と比較して約2/3の来訪者数となっている。繁忙期には、30～40歳代などファミリー層の構成比が特に高いが、この年代は来訪者数の繁閑差が大きい傾向にある。一方、男女60歳代や女性50歳代は、猛暑かつ混雑する7・8月を避ける傾向にあり、閑散期であっても8月に匹敵する、もしくは上回る来訪者数になった月もみられた。また男女20歳代も来訪者数のピークは春・秋であり、全体では閑散期である12月も8月の来訪者数を上回った。

来訪者数、性・年齢別構成比（恩納村）

月	来訪者数	性年齢別構成比									
		女性					男性				
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
2024/01	334,767	5.8%	7.9%	9.4%	8.9%	10.3%	6.5%	13.0%	12.6%	11.0%	14.6%
2024/02	394,553	7.0%	9.6%	9.5%	7.9%	10.1%	9.5%	12.2%	10.1%	11.9%	12.1%
2024/03	388,085	8.0%	8.5%	10.9%	7.0%	8.8%	8.8%	10.8%	16.4%	9.2%	11.6%
2024/04	376,381	5.8%	10.0%	10.5%	8.9%	8.9%	9.2%	12.5%	11.7%	10.9%	11.6%
2024/05	295,463	5.4%	11.4%	5.6%	7.6%	8.8%	8.1%	14.1%	12.3%	12.9%	13.8%
2024/06	305,902	4.9%	10.2%	9.9%	5.8%	6.9%	9.2%	13.6%	14.2%	15.0%	10.2%
2024/07	445,933	4.7%	11.4%	10.5%	6.0%	7.7%	6.3%	18.7%	17.5%	10.4%	6.8%
2024/08	491,219	5.5%	11.0%	13.0%	6.2%	5.9%	6.2%	12.1%	21.8%	11.0%	7.2%
2024/09	320,303	7.1%	7.0%	8.5%	6.4%	10.1%	10.1%	18.8%	12.8%	10.8%	8.3%
2024/10	413,159	11.3%	9.2%	8.3%	7.6%	6.7%	8.4%	16.7%	11.6%	11.2%	8.9%
2024/11	374,605	12.9%	8.0%	8.6%	7.4%	9.2%	8.2%	12.6%	11.2%	12.2%	9.6%
2024/12	325,958	9.5%	8.1%	7.6%	10.3%	10.8%	11.8%	10.6%	11.9%	8.9%	10.5%

性・年齢毎の月別来訪者数（恩納村、2024年8月=100）

月	全体	性年齢別									
		女性					男性				
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
2024/01	68.2	71.8	49.1	49.3	96.8	118.1	71.4	73.1	39.5	68.0	137.7
2024/02	80.3	103.3	69.7	58.8	102.3	136.8	123.8	80.7	37.3	86.4	134.5
2024/03	79.0	116.1	60.6	66.3	89.2	117.4	112.7	70.2	59.5	65.9	126.2
2024/04	76.6	81.4	69.6	62.1	109.0	115.0	113.5	78.9	41.2	75.4	123.3
2024/05	60.1	59.5	62.3	26.2	73.3	88.9	78.9	69.6	34.0	70.1	114.9
2024/06	62.3	56.2	57.7	47.5	57.6	72.7	92.7	69.5	40.7	84.9	88.0
2024/07	90.8	77.7	93.7	73.4	87.3	117.9	92.6	140.1	72.9	85.5	85.7
2024/08	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
2024/09	65.2	85.2	41.4	42.6	67.4	110.5	107.0	100.9	38.4	63.9	74.8
2024/10	84.1	173.9	70.3	53.7	102.6	95.1	114.0	116.0	44.9	85.6	103.2
2024/11	76.3	180.2	55.6	50.7	90.3	117.7	101.1	79.2	39.4	84.4	101.3
2024/12	66.4	115.6	48.5	39.0	109.8	120.4	126.1	58.2	36.4	53.5	96.0

表中色凡例

性・年齢別構成比
月間来訪者数を
100%として集計



0%
25%

性・年齢毎の月別来訪者数
各属性における2024年8月の
来訪者数を100として集計



0
100
200

恩納村における月毎の来訪者数発地別構成比をみると、全体として関東発地が多いが、特に繁忙期を含む7-9月は特に関東の比率が高くなる。一方、プロ野球キャンプのある2月は関東の割合が年間で最も低く、近畿からの来訪割合が最も高い。各発地における8月の来訪者数を100とした指数をみると、北海道・東北は2・3月がピークとなっており、プロ野球キャンプの影響が想定されるが、閑散期（1・5・6・9・12月）の来訪者数も全体の繁忙期である8月を上回っている。このほか、北陸・甲信や九州も、閑散期の来訪者数が8月に匹敵する、または上回る月がみられた。

来訪者数、発地別構成比（恩納村）

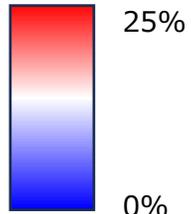
月	来訪者数	発地別構成比						
		北海道・東北	関東	北陸・甲信	東海	近畿	中国・四国	九州
2024/01	334,767	9.1%	38.5%	2.6%	13.9%	20.9%	5.2%	9.8%
2024/02	394,553	10.3%	32.5%	3.0%	12.8%	28.3%	6.7%	6.4%
2024/03	388,085	10.8%	36.6%	4.3%	13.8%	17.0%	7.2%	10.3%
2024/04	376,381	9.6%	38.6%	3.5%	11.4%	18.6%	7.7%	10.6%
2024/05	295,463	8.8%	38.2%	3.9%	13.5%	18.2%	6.2%	11.2%
2024/06	305,902	7.3%	38.7%	3.0%	11.9%	19.0%	6.3%	13.7%
2024/07	445,933	5.0%	43.5%	3.7%	11.9%	21.3%	4.7%	9.8%
2024/08	491,219	3.2%	50.1%	2.1%	13.2%	18.8%	5.5%	7.2%
2024/09	320,303	5.5%	44.5%	2.6%	10.4%	21.3%	5.0%	10.7%
2024/10	413,159	7.7%	41.4%	3.5%	13.4%	18.6%	6.4%	9.0%
2024/11	374,605	8.0%	38.9%	4.2%	13.5%	19.6%	6.7%	9.1%
2024/12	325,958	7.7%	39.6%	5.0%	12.5%	19.4%	6.8%	9.0%

発地毎の月別来訪者数（恩納村、2024年8月=100）

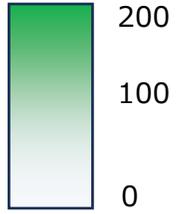
月	全体	発地別						
		北海道・東北	関東	北陸・甲信	東海	近畿	中国・四国	九州
2024/01	68.2	193.6	52.4	86.7	71.7	75.9	64.7	92.5
2024/02	80.3	256.2	52.1	118.7	78.2	121.1	97.7	71.5
2024/03	79.0	265.4	57.8	165.9	82.9	71.4	104.1	112.6
2024/04	76.6	228.8	59.0	130.1	66.3	75.8	108.1	113.3
2024/05	60.1	163.9	45.9	113.7	61.7	58.4	68.3	93.7
2024/06	62.3	141.8	48.1	91.8	56.3	63.0	71.7	118.9
2024/07	90.8	142.0	78.8	163.5	82.3	103.2	78.3	123.1
2024/08	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
2024/09	65.2	111.0	57.9	82.1	51.4	73.8	60.0	97.2
2024/10	84.1	202.1	69.5	141.9	85.4	83.2	98.8	105.3
2024/11	76.3	190.7	59.1	156.0	78.4	79.5	93.0	96.5
2024/12	66.4	158.6	52.4	161.6	62.9	68.6	83.0	83.3

表中色凡例

発地別構成比
月間来訪者数を
100%として集計



発地毎の月別来訪者数
各属性における2024年8月の
来訪者数を100として集計



国内観光客
エリア別着目ポイント分析

2. 琉球ゴールデンキングス 試合開催日の 観光客来訪動向

分析対象データ

- 琉球ゴールデンキングス試合開催日に沖縄アリーナへ来訪した、発地距離20km以上の国内観光客（沖縄県内からの来訪者も含む）

分析対象期間

- 2024年1～5月

琉球ゴールデンキングスの試合開催日における沖縄アリーナの来訪者数（発地距離20km以上）をみると、平日は1,500～2,000人、土日は2,000～3,000人前後で推移している。来訪者数が最も多かったのは、1月21日の宇都宮ブレックス戦であった。

「沖縄アリーナ」来訪者数（試合日別）

単位：人

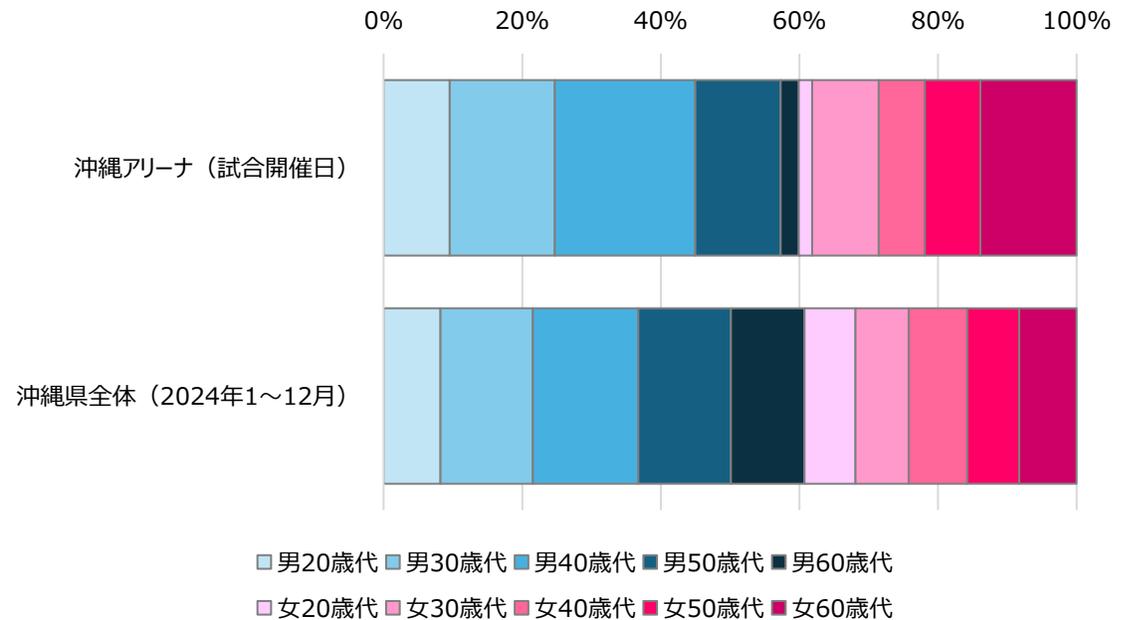
日付	曜日	試合開始時間	会場	対戦相手	来訪者数
2024/1/1	月	18:05	沖縄アリーナ	仙台89ERS	2,790
2024/1/20	土	14:00	沖縄アリーナ	宇都宮ブレックス	2,847
2024/1/21	日	14:05	沖縄アリーナ	宇都宮ブレックス	3,436
2024/1/24	水	19:00	沖縄アリーナ	ニュータイペイキングス	1,882
2024/1/27	土	18:05	沖縄アリーナ	京都ハンナリーズ	1,556
2024/1/28	日	18:05	沖縄アリーナ	京都ハンナリーズ	2,384
2024/2/10	土	18:05	沖縄アリーナ	レバンガ北海道	2,082
2024/2/11	日	18:05	沖縄アリーナ	レバンガ北海道	2,729
2024/2/14	水	19:30	沖縄アリーナ	川崎ブレイブサンダース	2,505
2024/3/6	水	19:35	沖縄アリーナ	京都ハンナリーズ	1,628
2024/3/20	水	19:35	沖縄アリーナ	大阪エヴェッサ	2,261
2024/3/23	土	18:05	沖縄アリーナ	秋田ノーザンハピネッツ	2,658
2024/3/24	日	18:05	沖縄アリーナ	秋田ノーザンハピネッツ	2,818
2024/3/30	土	18:05	沖縄アリーナ	茨城ロボッツ	2,675
2024/3/31	日	18:05	沖縄アリーナ	茨城ロボッツ	1,668
2024/4/6	土	18:10	沖縄アリーナ	千葉ジェッツ	2,385
2024/4/7	日	18:05	沖縄アリーナ	千葉ジェッツ	2,520
2024/4/10	水	19:35	沖縄アリーナ	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	1,896
2024/4/17	水	19:35	沖縄アリーナ	佐賀バルナーズ	1,880
2024/4/20	土	18:05	沖縄アリーナ	長崎ヴェルカ	2,982
2024/4/21	日	18:05	沖縄アリーナ	長崎ヴェルカ	2,453
2024/5/18	土	16:05	沖縄アリーナ	千葉ジェッツ	2,198
2024/5/19	日	16:05	沖縄アリーナ	千葉ジェッツ	2,099
2024/5/21	火	19:05	沖縄アリーナ	千葉ジェッツ	1,541

試合開催日における沖縄アリーナ来訪者数を発地都道府県別にみると、最多は沖縄県内からの来訪であったが、以下、東京都、神奈川県、福岡県、千葉県と続いた。上位15都道府県のうち、対戦相手の本拠地が位置する都道府県が9県ランクインしていた。性・年齢別にみると、最も構成比が高いのが、男性40歳代で、以下男性30歳代、女性60歳代と続いている。沖縄県全体との比較では、上記のほか男性20歳代や女性40歳代の構成比も高い。

発地都道府県別「沖縄アリーナ」来訪者数ランキング（上位15）

順位	発地都道府県	来訪者数	対戦相手本拠地
1	沖縄県	39,988	
2	東京都	2,310	
3	神奈川県	1,893	○
4	福岡県	1,610	
5	千葉県	1,278	○
6	大阪府	950	○
7	栃木県	895	○
8	長崎県	786	○
9	愛知県	782	○
10	埼玉県	767	
11	鹿児島県	619	
12	北海道	573	○
13	秋田県	494	○
14	茨城県	377	○
15	静岡県	364	

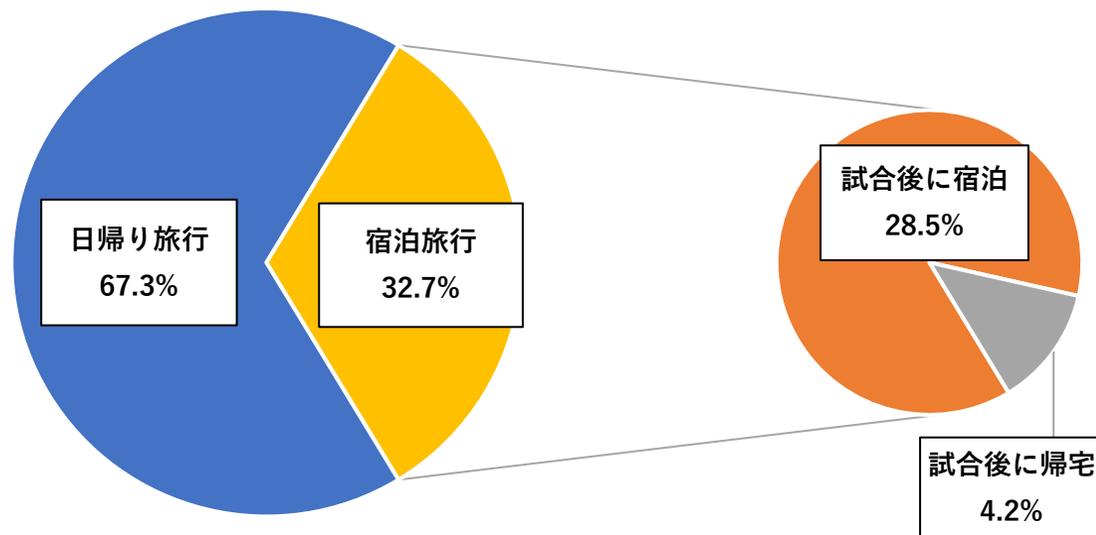
性・年齢別来訪者数構成比



注）沖繩アリーナの来訪者数は同地から発地距離20km以上、沖縄県全体の来訪者数は、県外発地のみを対象に集計

試合開催日における沖縄アリーナ来訪者の旅程（日帰り旅行・宿泊旅行別）をみると、来訪者のうち宿泊旅行（試合日、試合日前日のいずれか、または双方で宿泊）の来訪者は全体の32.7%で、なかでも試合後に宿泊した来訪者は全体の28.5%であった。試合後の宿泊市町村をみると、沖縄アリーナが位置する沖縄市は宿泊先全体の36.8%にとどまり、次いで那覇市が33.0%、北谷町が10.2%と続いたほか、恩納村、名護市、糸満市など本島内の遠方に宿泊する来訪者も一定数みられた。

試合開催日における沖縄アリーナ来訪者の
旅程構成比



注) 試合日、試合日前日のいずれか、または双方で宿泊（深夜帯に発地と異なる市町村で滞在）した来訪者を「宿泊旅行」として集計

試合開催日における沖縄アリーナ来訪者の
試合日宿泊先（市町村別、上位10）

順位	宿泊先	構成比
1	沖縄市	36.8%
2	那覇市	33.0%
3	北谷町	10.2%
4	恩納村	4.8%
5	宜野湾市	3.1%
6	浦添市	3.0%
7	名護市	1.7%
8	糸満市	1.2%
9	本部町	1.2%
10	南風原町	1.1%

試合開催日に沖縄アリーナ来訪者がアリーナ来訪の直前・直後に来訪した観光スポットをみると、直前・直後ともに沖縄市内の宿泊施設群が周遊先として最多となった。特徴として、アリーナ来訪の前（試合前）は沖縄アリーナ周辺の観光地・繁華街（中の町・コザアーケード周辺、北谷アメリカンビレッジ・デポアイランド）の来訪が多いが、アリーナ来訪後（試合後）の来訪は来訪前より少なく、那覇市の繁華街（国際通り、久茂地・松山など）を訪問する観光客が増加した。

沖縄アリーナの直前に来訪した観光スポット（試合開催日）

単位：トリップ

順位	周遊先（沖縄アリーナの直前）	周遊者数
1	宿泊施設（沖縄市）	3,283
2	那覇空港周辺	2,603
3	中の町・コザアーケード周辺	2,079
4	宿泊施設（那覇市）	1,754
5	北谷アメリカンビレッジ・デポアイランド	1,334
6	宿泊施設（西海岸）	1,325
7	久茂地・松山	609
8	新都心エリア	605
9	国際通り	543
10	道の駅かでな	360
11	宿泊施設（中部）	303
12	中部 MICE施設	229
13	ナゴパイナッフルパーク	226
14	道の駅いとまん	202
15	瀬底島	190

沖縄アリーナの直後に来訪した観光スポット（試合開催日）

単位：トリップ

順位	周遊先（沖縄アリーナの直後）	周遊者数
1	宿泊施設（沖縄市）	5,307
2	宿泊施設（西海岸）	2,086
3	宿泊施設（那覇市）	1,345
4	国際通り	1,254
5	中の町・コザアーケード周辺	969
6	久茂地・松山	804
7	那覇空港周辺	716
8	北谷アメリカンビレッジ・デポアイランド	476
9	宿泊施設（中部）	385
10	新都心エリア	361
11	中部 MICE施設	261
12	宿泊施設（名護・国頭）	215
13	道の駅いとまん	86
14	豊崎エリア	72

国内観光客
エリア別着目ポイント分析

3. 那覇市内の MICE・イベントによる 観光来訪

分析対象データ

- 那覇市内のMICE・イベント施設（10施設）に来訪した沖縄県外を発地とする国内観光客

分析対象期間

- 2024年（1～12月）

※那覇市MICE・イベント施設：
那覇文化芸術劇場なはーと、沖縄県立博物館・美術館、
沖縄県男女共同参画センター ている、
琉球新報ホール・琉球新報ギャラリー、てんぶす那覇、
沖縄セルラースタジアム那覇、沖縄産業支援センター、
沖縄県市町村自治会館、沖縄県青年会館、那覇市IT創造館

2024年の那覇市のMICE・イベント施設（10施設）における来訪者数は34.7万人で、前年を8.9%上回っている。月別推移をみると、来訪者数は2月が最も多く、前年増減率は5月の+88.1%が最も高くなった。日別の来訪者数ランキングをみると、5月15日が最も多く、同日はRubyKaigi 2024（那覇文化芸術劇場）やプロ野球公式戦（沖縄セルラースタジアム那覇）など複数のイベントが開催された。

那覇市MICE・イベント施設来訪者数（月別）

年月	来訪者数（人）	前年増減率
2024/01	19,530	▲15.6%
2024/02	66,570	17.5%
2024/03	26,902	▲5.2%
2024/04	20,713	5.0%
2024/05	44,349	88.1%
2024/06	21,182	▲29.1%
2024/07	24,150	10.1%
2024/08	19,801	▲6.9%
2024/09	18,147	4.3%
2024/10	24,967	31.5%
2024/11	34,824	14.2%
2024/12	25,694	▲5.3%
計	346,829	8.9%

那覇市MICE・イベント施設来訪者数
日別ランキング

順位	日	来訪者数（人）
1	2024/5/15	8,809
2	2024/2/23	8,628
3	2024/5/14	8,505
4	2024/11/30	7,614
5	2024/2/18	5,238
6	2024/2/22	5,221
7	2024/2/17	5,207
8	2024/2/19	5,080
9	2024/2/25	4,468
10	2024/2/21	4,443

※那覇市MICE・イベント施設：
那覇文化芸術劇場なはーと、沖縄県立博物館・美術館、沖縄県男女共同参画センター ている、琉球新報ホール・琉球新報ギャラリー、てんぶす那覇、沖縄セルラースタジアム那覇、沖縄産業支援センター、沖縄県市町村自治会館、沖縄県青年会館、那覇市IT創造館

那覇市のMICE・イベント施設（10施設）における性・年齢別構成比をみると、男性比率が高く、中でも40歳代が最も高い。このほか男性20～50歳代では構成比が10%を上回っている。女性では20・40歳代が比較的高い。発地別にみると、関東が最も多く、前年増減率もプラスになっている。以下、近畿、九州の順に多く、特に近畿では前年からのプラスが大きい。

性・年齢別那覇市MICE・イベント施設来訪者数（2024年）

性・年齢	来訪者数（人）	構成比	前年増減率
男20歳代	39,676	11.4%	80.6%
男30歳代	41,055	11.8%	▲6.1%
男40歳代	62,819	18.1%	28.7%
男50歳代	51,248	14.8%	2.9%
男60歳代	32,552	9.4%	▲14.7%
女20歳代	27,769	8.0%	15.2%
女30歳代	17,695	5.1%	▲0.1%
女40歳代	30,345	8.7%	9.0%
女50歳代	22,643	6.5%	▲11.8%
女60歳代	21,027	6.1%	1.3%
計	346,829	100.0%	8.9%

発地別那覇市MICE・イベント施設来訪者数（2024年）

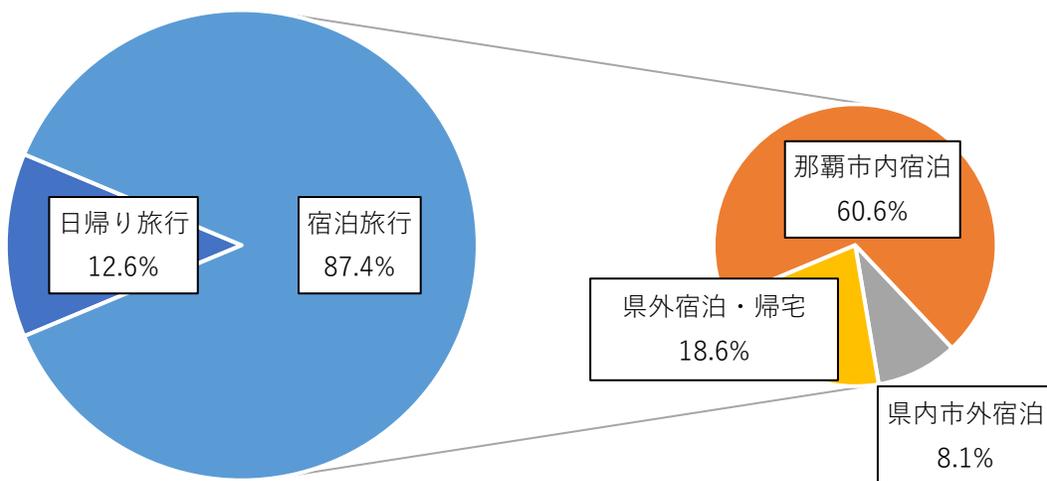
発地	来訪者数（人）	構成比	前年増減率
北海道・東北	15,505	4.5%	▲11.0%
関東	159,080	45.9%	12.9%
北陸・甲信	5,884	1.7%	▲6.8%
東海	26,647	7.7%	▲19.7%
近畿	67,784	19.5%	36.5%
中国・四国	13,334	3.8%	▲2.0%
九州	58,595	16.9%	2.1%
計	346,829	100.0%	8.9%

※那覇市MICE・イベント施設：

那覇文化芸術劇場なはーと、沖縄県立博物館・美術館、沖縄県男女共同参画センター ている、琉球新報ホール・琉球新報ギャラリー、てんぶす那覇、沖縄セルラースタジアム那覇、沖縄産業支援センター、沖縄県市町村自治会館、沖縄県青年会館、那覇市IT創造館

MICE・イベント施設来訪者の旅程（日帰り旅行・宿泊旅行別）をみると、来訪者のうち宿泊旅行の来訪者は全体の87.4%で、なかでも那覇市内に宿泊した来訪者は全体の60.6%と、MICE・イベント等での来訪が市内への宿泊に寄与していることが見て取れる。また、MICE・イベント施設からの観光スポット周遊先をみると、国際通りや久茂地・松山などの繁華街が上位に挙がっており、特に久茂地・松山では前年からの増加率が高い。

那覇市MICE・イベント施設来訪者の旅程・宿泊状況
(2024年)



那覇市MICE・イベント施設来訪者の周遊先（2024年）

周遊先	周遊数（トリップ）	前年増減率
国際通り	173,772	▲1.2%
久茂地・松山	156,891	25.7%
新都心エリア	91,324	▲3.5%
首里城公園	16,501	32.1%
豊崎エリア	7,043	8.2%
北谷アメリカンビレッジ	5,283	6.7%
栄町	5,082	▲8.7%
壺屋やちむん通り	4,204	▲21.9%
瀬長島ウミカジテラス	2,758	▲16.9%
道の駅いとまん	2,112	▲25.6%

※那覇市MICE・イベント施設：
那覇文化芸術劇場なはーと、沖縄県立博物館・美術館、沖縄県男女共同参画センター ている、
琉球新報ホール・琉球新報ギャラリー、てんぶす那覇、沖縄セルラースタジアム那覇、沖縄産業支援センター、
沖縄県市町村自治会館、沖縄県青年会館、那覇市IT創造館

国内観光客
エリア別着目ポイント分析

4. 宮古島トライアスロン 当日の混雑状況

分析対象データ

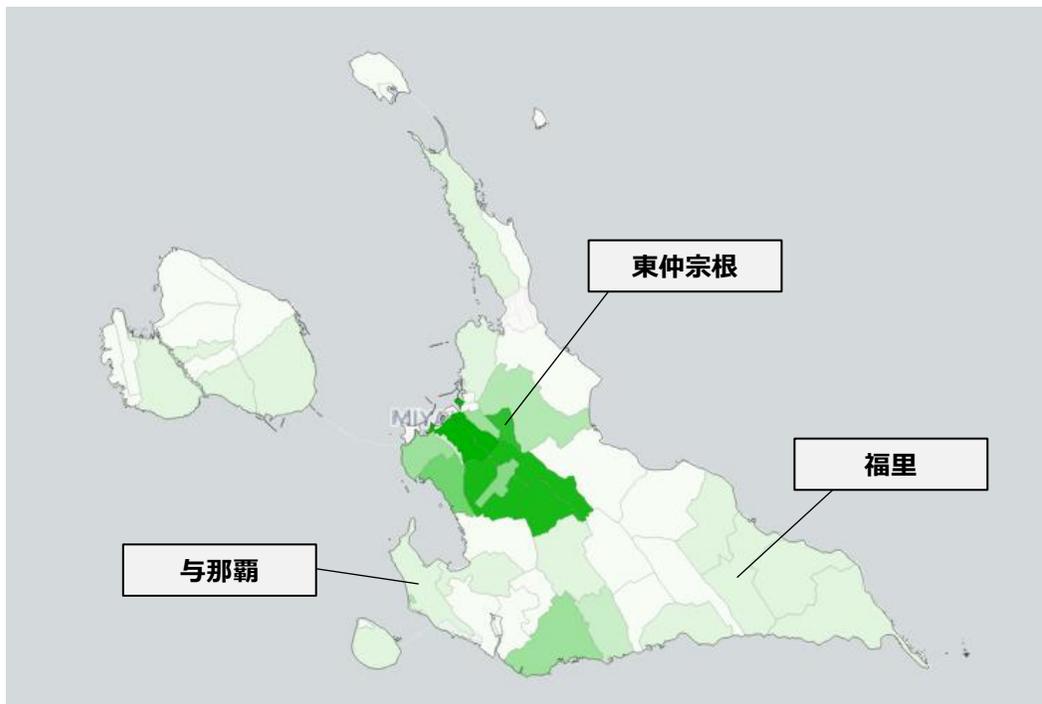
- 宮古島トライアスロン開催日における宮古島市来訪・滞在者
(沖縄県内・宮古島市内在住者も含む)

分析対象期間

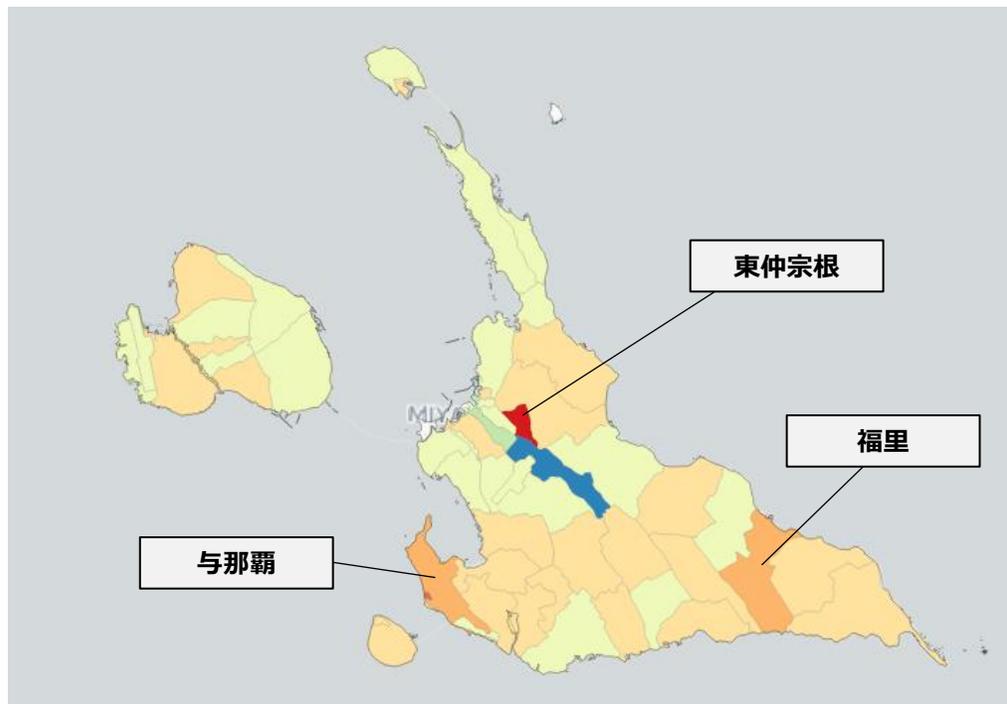
- 2024年4月14日
- 2024年4月7・21日 (周辺日として開催当日と比較)

宮古島トライアスロン当日（2024年4月14日）の宮古島市内における地点別来訪者数をみると、西里・下里などの中心市街地、宮古島市陸上競技場が立地する東仲宗根などで多いことが分かる。周辺日（4月7・21日の平均）との比較では、先述の東仲宗根や、スイム会場である与那覇などでトライアスロン当日の来訪者数が増加したほか、宮古島南部での増加も読み取れる。一方、中心市街地では周辺日より来訪者数が減少していた。

開催日来訪者数

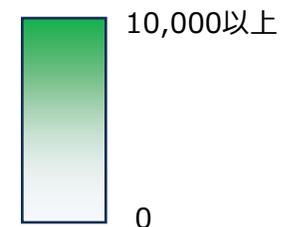


開催日来訪者数（周辺日との差）

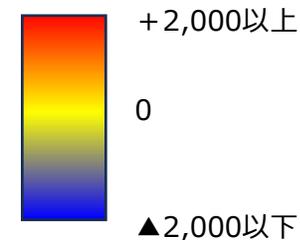


凡例

開催日来訪者数（人）



開催日来訪者数
（周辺日との差、人）



周辺日（4月7・21日の平均）と比較したトライアスロン開催日の来訪者数増加人数が多い地点を混雑地点として抽出すると、東仲宗根（ゴール地点）では5,000人以上の増加、福里（ラン折り返し地点）や与那覇（スタート地点・スイム会場周辺）では1,000人以上の増加がみられた。このほか、宮古島中～南部のバイクコース上（新里、新城、友利）やランコース上（下里添）などでは500人以上の増加となった。

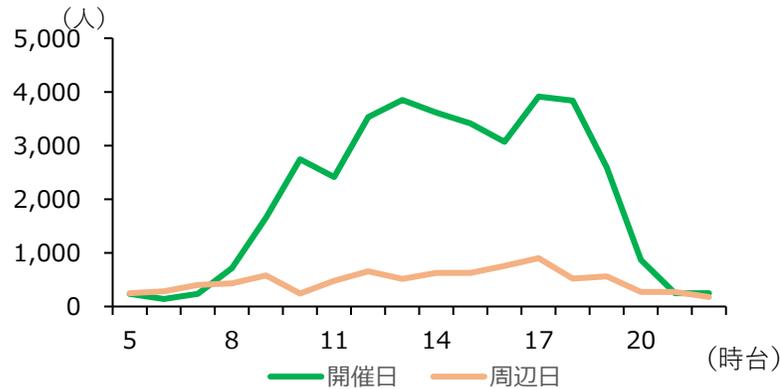
混雑地点の開催日来訪者数

集計地点	来訪者数（人）			開催日 増加人数	開催日 増加率	コース			備考
	4月14日 （開催日）	4月7日	4月21日			スイム	バイク	ラン	
東仲宗根	9,007	3,227	3,709	5,539	159.7%		○	○	ゴール地点（宮古島市陸上競技場）
福里	1,696	682	294	1,208	247.5%		○	○	ラン折り返し地点
与那覇	1,994	725	1,095	1,084	119.1%	○			スタート地点（スイム会場周辺）
野原	1,848	515	1,521	830	81.5%				
新里	2,670	1,337	2,664	670	33.5%		○		
与那覇前浜ビーチ	1,327	0	678	649	95.7%	○			スタート地点（スイム会場周辺）
下里添	893	453	294	520	139.1%			○	
新城	1,018	233	776	514	101.8%		○		
西仲宗根	3,259	2,492	3,009	509	18.5%		○		
友利	1,342	574	1,112	499	59.2%		○		

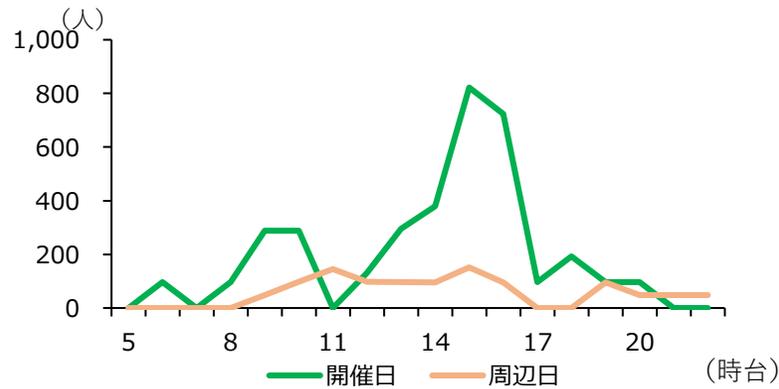
混雑地点の来訪者数を時間帯別にみると、地点別で混雑する時間帯が異なることが分かる。競技時間（開始：7:00、先頭ゴール：13:30頃、競技終了：19:00）に対して、スタート地点の与那覇では5時代から来訪者数が増加し、11時には周辺日並みまで減少、東仲宗根では9時代から来訪者数が増加し、11時には周辺日並みまで減少、東仲宗根では9時代から20時台まで増加となっている。また福里、新里、新城では、選手通過時間等によるピンポイントな増加がみられた。

時間帯別来訪者数（トライアスロン開催日）

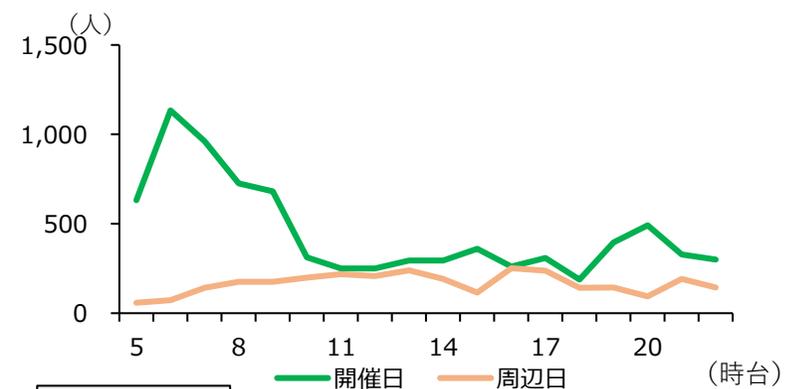
東仲宗根



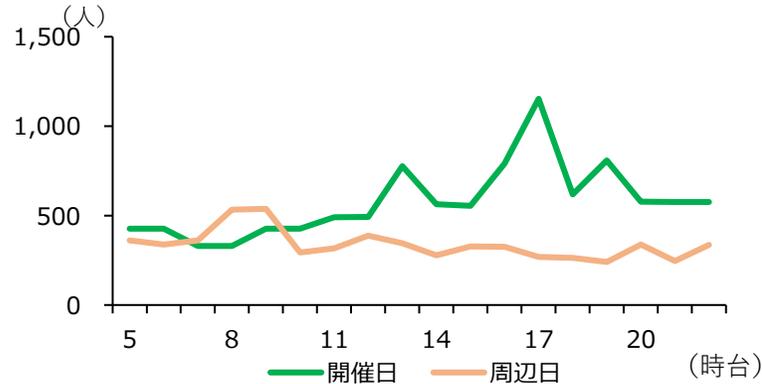
福里



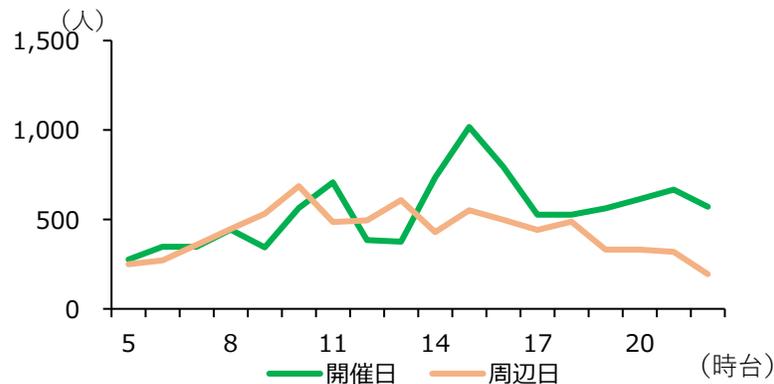
与那覇



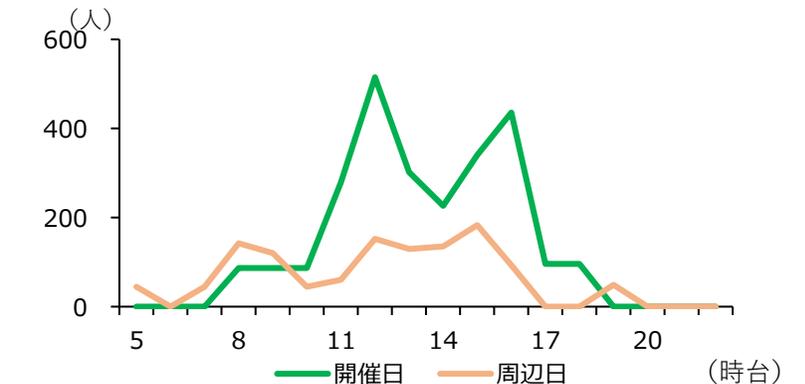
野原



新里



新城



国内観光客
エリア別着目ポイント分析

5. 石垣市における 川平湾以外の 滞在スポット

分析対象データ

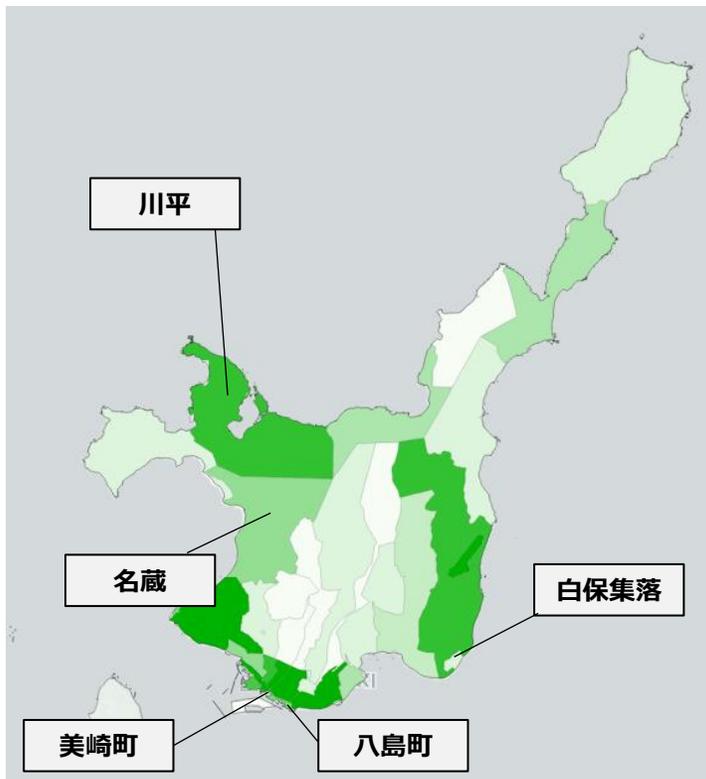
- 石垣市に来訪した沖縄県外を発地とする国内観光客

分析対象期間

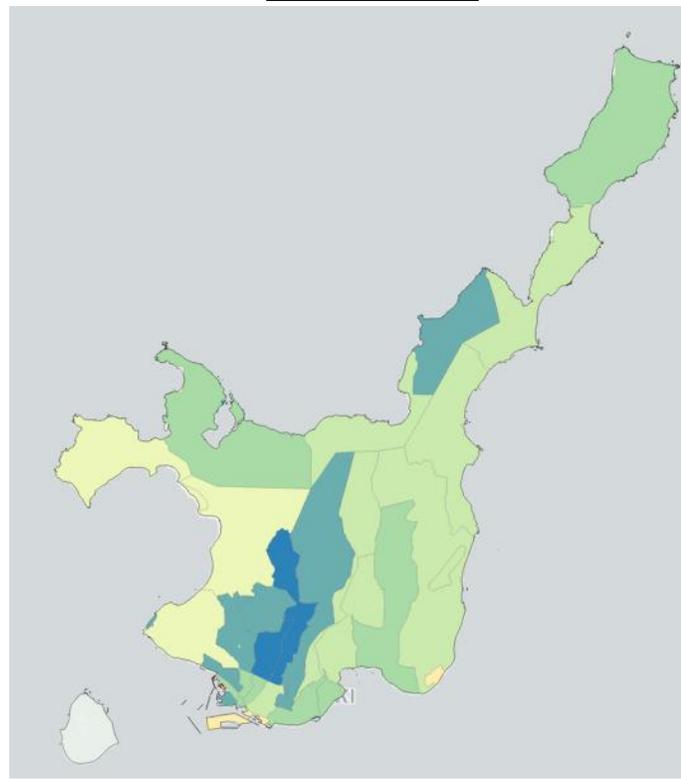
- 2024年（1～12月）

2024年の石垣市における来訪者数をみると、川平湾周辺のほか、美崎町など石垣市街地で多いことが分かる。その他のエリアでは、石垣市街地の湾岸エリアである「八島町」、西部で名蔵湾に面する「名蔵」、南東部で古い石垣の雰囲気が残る「白保集落」などでは、来訪者数の規模が小さいながら、石垣市全体と比較すると来訪者数の前年増減率が比較的高く、「着目地点」として動向を分析する。

来訪者数（2024年）



来訪者数前年増減率（2024年）

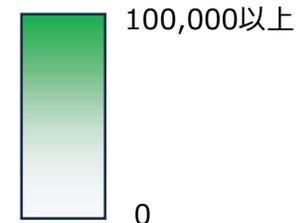


地点別来訪者数

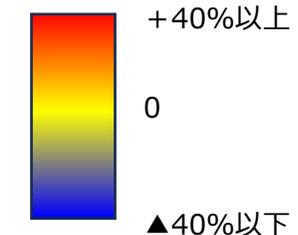
地点	来訪者数（人）			前年増減率	
	2022年	2023年	2024年	2023年	2024年
石垣市全体	3,242,935	4,075,544	3,748,987	25.7%	▲8.0%
美崎町	1,030,740	1,289,148	1,128,638	25.1%	▲12.5%
川平	418,495	494,032	429,099	18.0%	▲13.1%
八島町	210,521	238,178	250,267	13.1%	5.1%
名蔵	177,079	221,469	216,245	25.1%	▲2.4%
白保集落	59,700	82,555	83,802	38.3%	1.5%

凡例

来訪者数（人）



来訪者数前年増減率



着目地点の月別来訪者数をみると、名蔵や白保集落では、石垣市の観光ピークである8月の来訪者数が多く、また前年からの増加率も高い。8月は川平湾などの来訪も多い時期であり、人気エリアの混雑に対して、これらが観光客の来訪分散に寄与している。いっぽう、八島町では、来訪者数の月別差が小さいほか、前年同月比プラスの月が多い点が特徴であり、宿泊施設のリニューアルオープン（2024年2月）などが寄与したと考えられる。

着目地点の月別来訪者数（2024年）

	来訪者数（人）			前年増減率		
	八島町	名蔵	白保集落	八島町	名蔵	白保集落
2024/01	19,203	22,479	5,898	28.9%	19.0%	15.6%
2024/02	17,362	19,748	6,769	20.9%	4.4%	51.6%
2024/03	17,085	21,208	9,892	▲20.8%	▲1.9%	▲8.6%
2024/04	20,295	19,826	7,802	▲14.1%	2.9%	▲4.4%
2024/05	17,711	15,730	6,529	▲13.6%	▲35.2%	▲10.9%
2024/06	19,964	14,035	5,282	▲14.6%	▲22.4%	▲18.3%
2024/07	28,742	17,264	6,908	3.1%	▲9.9%	▲9.8%
2024/08	26,361	22,451	11,627	21.9%	36.7%	62.3%
2024/09	21,859	11,992	4,542	28.7%	▲3.1%	▲28.4%
2024/10	21,986	17,011	8,980	5.0%	▲10.9%	27.0%
2024/11	21,198	17,334	5,272	31.8%	▲4.2%	▲24.8%
2024/12	18,501	17,167	4,301	13.5%	12.2%	▲13.4%

着目地点の性・年齢別来訪者数をみると、八島町では男性30～60歳代が特に多く、対して白保集落では来訪者数の性差は小さい。名蔵では男性30～60歳代のほか、女性30・60歳代の来訪も多い。前年増減率をみると、八島町では男女60歳代、名蔵では男性60歳代・女性30歳代、白保集落では男性40歳代・女性60歳代の増加率が高い。

着目地点の性・年齢別来訪者数（2024年）

	来訪者数（人）			前年増減率		
	八島町	名蔵	白保集落	八島町	名蔵	白保集落
男20歳代	16,983	15,236	8,024	▲21.8%	0.9%	28.5%
男30歳代	33,435	27,349	10,602	▲3.2%	▲18.2%	▲13.9%
男40歳代	34,804	25,233	11,544	▲9.3%	▲16.9%	57.9%
男50歳代	44,778	22,426	8,622	4.7%	▲13.7%	▲19.5%
男60歳代	36,833	28,983	7,465	50.7%	41.9%	▲3.0%
女20歳代	12,828	15,539	5,763	▲16.9%	12.9%	▲36.2%
女30歳代	21,184	25,749	7,035	30.6%	34.0%	▲35.3%
女40歳代	10,719	16,782	3,247	▲43.7%	▲23.3%	▲55.9%
女50歳代	13,776	17,513	7,709	6.9%	▲5.2%	5.4%
女60歳代	24,927	21,435	13,791	95.9%	▲6.0%	273.8%

国内観光客
エリア別着目ポイント分析

6. 高消費層の 沖縄県来訪動向

分析対象データ

- 沖縄県内のラグジュアリー宿泊施設（27施設）に来訪した県外発地の国内観光客
※抽出方法は「国内観光客宿泊施設と観光スポットとの相関分析」を参照
- 沖縄県全体の来訪者（県外発地の国内観光客、比較対象）

分析対象期間

- 2024年（1～12月）

沖縄県内のラグジュアリーホテルへの来訪者数から2024年における高消費層の動向をみると、2024年の来訪者数は前年増減率+0.6%であり、前年差プラスながら沖縄県全体の増加率を下回っている。月別の構成比をみると、全体では2月や8月が来訪者数のピークであるのに対して、富裕層では3月や10月が来訪者数のピークとなっており、全体の傾向と異なることが読み取れる。

来訪者数月別構成比・前年増減率（沖縄県、月別）

年月	来訪者数月別構成比		来訪者数前年増減率	
	高消費層	全体	高消費層	全体
2024/01	7.0%	8.0%	1.5%	3.8%
2024/02	8.4%	9.6%	0.5%	6.6%
2024/03	10.1%	8.7%	2.9%	▲6.8%
2024/04	8.6%	8.3%	8.0%	▲3.0%
2024/05	7.7%	7.5%	4.9%	▲8.9%
2024/06	7.7%	7.1%	▲11.8%	▲11.1%
2024/07	9.0%	8.8%	▲8.1%	1.0%
2024/08	8.6%	9.5%	12.0%	21.6%
2024/09	7.9%	7.0%	11.2%	1.7%
2024/10	10.0%	8.5%	▲0.9%	5.7%
2024/11	9.0%	8.6%	0.7%	6.6%
2024/12	6.0%	8.5%	▲9.8%	15.0%
計	100.0%	100.0%	0.6%	2.4%

高消費層来訪者の属性をみると、性・年齢別では男性40歳代が13.7%と最も高い構成比を示した。ただし、男性40歳代は来訪者全体においても15.2%と高い構成比を占めており、高消費層特有の傾向とは言い切れない。一方で、高消費層が全体を上回った性・年齢層には、男女30歳代や女性40・50歳代が挙げられる。なかでも30歳代は、ハネムーン目的の来訪者が高消費層に多く含まれることから、構成比が高まったと考えられる。発地別にみると、高消費層では関東の構成比が際立って高く、全体と比べて+10%ポイント上回っているほか、東海や近畿からの来訪も全体の構成比を上回っている。男女30歳代においても、関東からの来訪比率が高いことが分かる。

高消費層の発地・性年齢別来訪者数構成比（沖縄県、2024年）

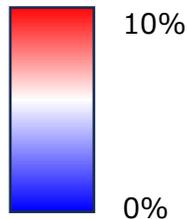
	男性					女性					計
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	
北海道・東北	0.2%	0.5%	0.7%	0.6%	0.7%	0.3%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	5.0%
関東	3.7%	8.3%	5.9%	5.3%	5.0%	3.6%	5.4%	5.7%	3.9%	3.9%	50.7%
北陸・甲信	0.0%	0.3%	0.2%	0.3%	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%	0.0%	0.3%	1.6%
東海	1.1%	1.5%	2.2%	1.5%	1.5%	0.8%	1.0%	1.0%	0.6%	1.0%	12.3%
近畿	1.0%	2.7%	2.6%	2.8%	2.5%	0.9%	1.4%	2.3%	1.8%	2.3%	20.4%
中国・四国	0.1%	0.2%	0.6%	0.7%	0.6%	0.1%	0.1%	0.2%	0.3%	0.3%	3.4%
九州	0.2%	0.7%	1.6%	1.0%	0.6%	0.5%	0.7%	0.7%	0.5%	0.3%	6.6%
計	6.4%	14.2%	13.7%	12.2%	11.1%	6.3%	9.2%	10.7%	7.7%	8.6%	100%

発地・性年齢別来訪者数構成比（沖縄県、2024年）

	男性					女性					計
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	
北海道・東北	0.5%	0.8%	1.0%	0.8%	1.0%	0.3%	0.4%	0.5%	0.4%	0.7%	6.4%
関東	3.4%	5.7%	6.0%	5.3%	3.7%	3.2%	3.2%	3.7%	3.1%	2.9%	40.2%
北陸・甲信	0.1%	0.3%	0.4%	0.4%	0.3%	0.2%	0.2%	0.3%	0.2%	0.3%	2.8%
東海	1.0%	1.3%	1.6%	1.5%	1.3%	0.6%	0.9%	0.9%	0.7%	1.1%	10.9%
近畿	1.5%	2.5%	2.4%	2.3%	1.9%	1.4%	1.6%	1.5%	1.7%	1.6%	18.3%
中国・四国	0.4%	0.5%	0.9%	0.8%	0.7%	0.4%	0.4%	0.5%	0.4%	0.6%	5.5%
九州	1.3%	2.2%	3.0%	2.3%	1.7%	1.2%	1.1%	1.1%	0.9%	1.2%	15.9%
計	8.2%	13.3%	15.2%	13.4%	10.7%	7.3%	7.7%	8.5%	7.5%	8.3%	100%

表中色凡例

発地・性年齢別
来訪者数構成比
年間来訪者数を
100%として集計



ラグジュアリーホテルからの周遊先から、高消費層の観光スポット来訪動向をみると、周遊先として最も多かったのは沖縄美ら海水族館で、以下、北谷アメリカンビレッジ、万座毛と続いた。また沖縄県全体の傾向と比べ、道の駅かでなやビオスの丘の占める周遊先の構成比は高かった。上位20スポット内での構成比をみると、沖縄美ら海水族館・北谷アメリカンビレッジの2スポットで特に高く、来訪者全体での構成比を大きく上回った。対して、国際通り、久茂地・松山など那覇市内の繁華街への来訪は、全体と比較して少ない傾向にある。

高消費層の観光スポット周遊先（2024年、上位20スポット）

順位	観光スポット	高消費層周遊先 構成比	前年 増減率	構成比（全体）
1	沖縄美ら海水族館	21.0%	▲6.3%	8.0%
2	北谷アメリカンビレッジ	12.5%	▲4.5%	8.2%
3	万座毛	9.8%	3.7%	2.1%
4	古宇利島	9.7%	▲1.1%	4.0%
5	国際通り	8.6%	▲3.7%	25.8%
6	道の駅許田	7.7%	▲14.4%	2.9%
7	新都心エリア	3.7%	▲9.0%	6.6%
8	ナゴパイナップルパーク	3.7%	8.0%	1.5%
9	首里城公園	3.6%	10.4%	5.1%
10	豊崎エリア	3.2%	8.5%	4.3%
11	久茂地・松山	2.6%	▲1.7%	19.8%
12	道の駅かでな	2.5%	0.6%	1.2%
13	瀬長島ウミカジテラス	2.2%	0.1%	2.7%
14	みどり街	1.8%	▲8.6%	1.3%
15	備瀬のフクギ並木	1.7%	▲6.1%	1.4%
16	ビオスの丘	1.5%	▲8.8%	0.2%
17	瀬底島	1.3%	▲14.0%	2.0%
18	御菓子御殿読谷本店	1.1%	▲9.3%	0.4%
19	ハナサキマルシェ	0.9%	8.3%	0.8%
20	ひめゆりの塔	0.8%	14.9%	1.5%
	計	100.0%	-	100.0%